

香川県の地震

令和5年（2023年）10月

香川県の地震活動

震央分布図、断面図	・・・	1
地震概況	・・・	1

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会^(注)

評価検討会調査結果 令和5年（2023年）11月8日	・・・	2
----------------------------	-----	---

(注) 直近に開催された評価検討会の調査結果を掲載します。

地震一口メモ

地震活動図の見方について	・・・	3～4
--------------	-----	-----

この資料の震源リスト・震源要素(緯度、経度、深さ、マグニチュード)は暫定値であり、後日再調査の上修正されることがあります。

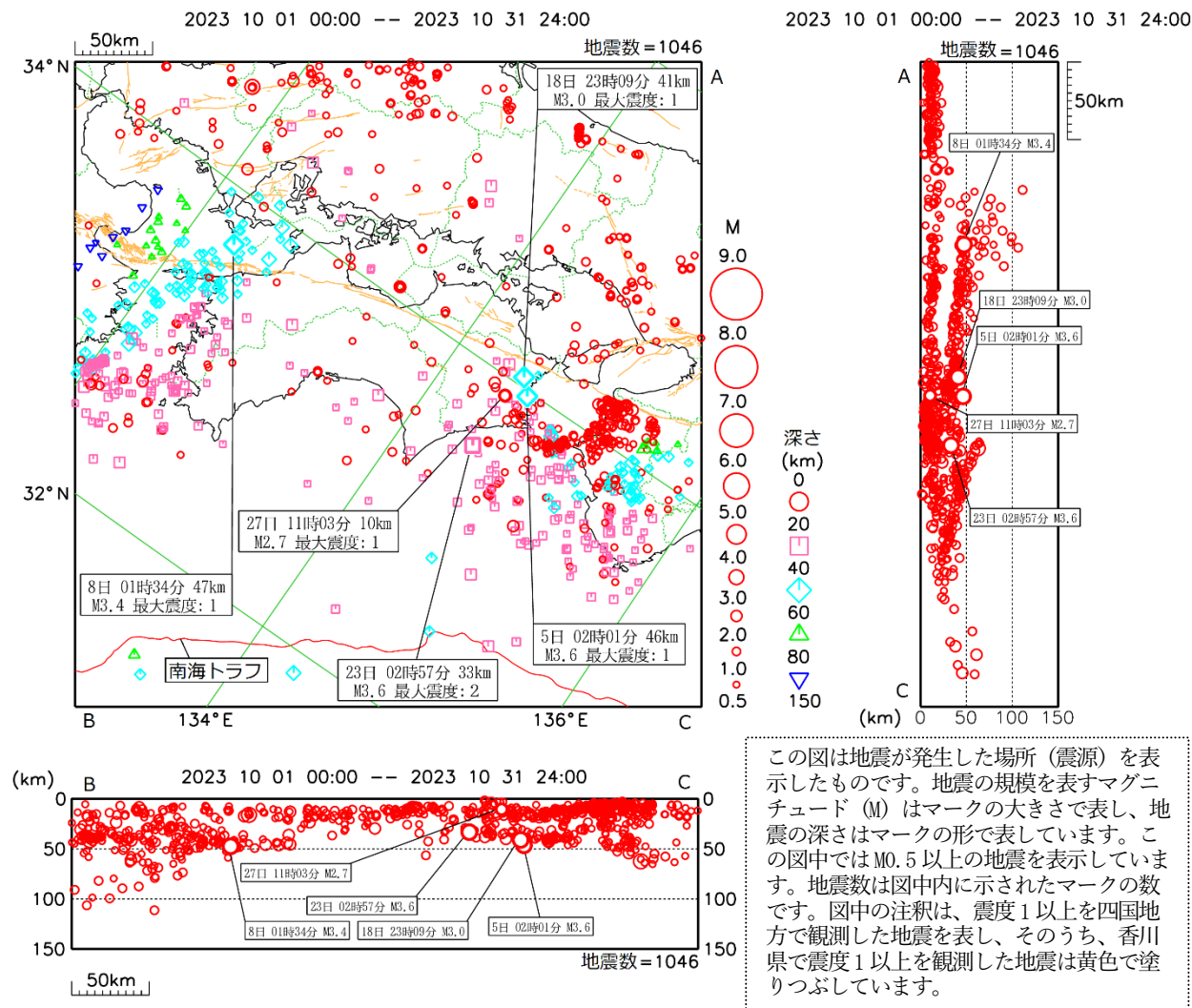
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

高松地方気象台

【香川県の地震活動】

2023年10月

◎震央分布図、断面図



〔左上：震央分布図、右上：A-Cを投影面とした断面図、左下：B-Cを投影面とした断面図〕

◎地震概況

香川県で震度1以上を観測した地震は、ありませんでした（前月は1回）。

四国で震度1以上を観測した地震は、次の5回でした。

5日02時01分 徳島県北部の地震（深さ46km、M3.6）により、和歌山県湯浅町・由良町、徳島県徳島市・阿南市・上勝町・牟岐町・那賀町・美波町、高知県東洋町で震度1を観測しました。

8日01時34分 伊予灘の地震（深さ47km、M3.4）により、広島県呉市、愛媛県久万高原町・宇和島市・八幡浜市、山口県周防大島町で震度1を観測しました。

18日23時09分 徳島県北部の地震（深さ41km、M3.0）により、徳島県美馬市で震度1を観測しました。

23日02時57分 四国沖の地震（深さ33km、M3.6）により、徳島県美馬市で震度2を観測したほか、徳島県、高知県で震度1を観測しました。

27日11時03分 徳島県南部の地震（深さ10km、M2.7）により、徳島県那賀町で震度1を観測しました。

【南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会】

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。

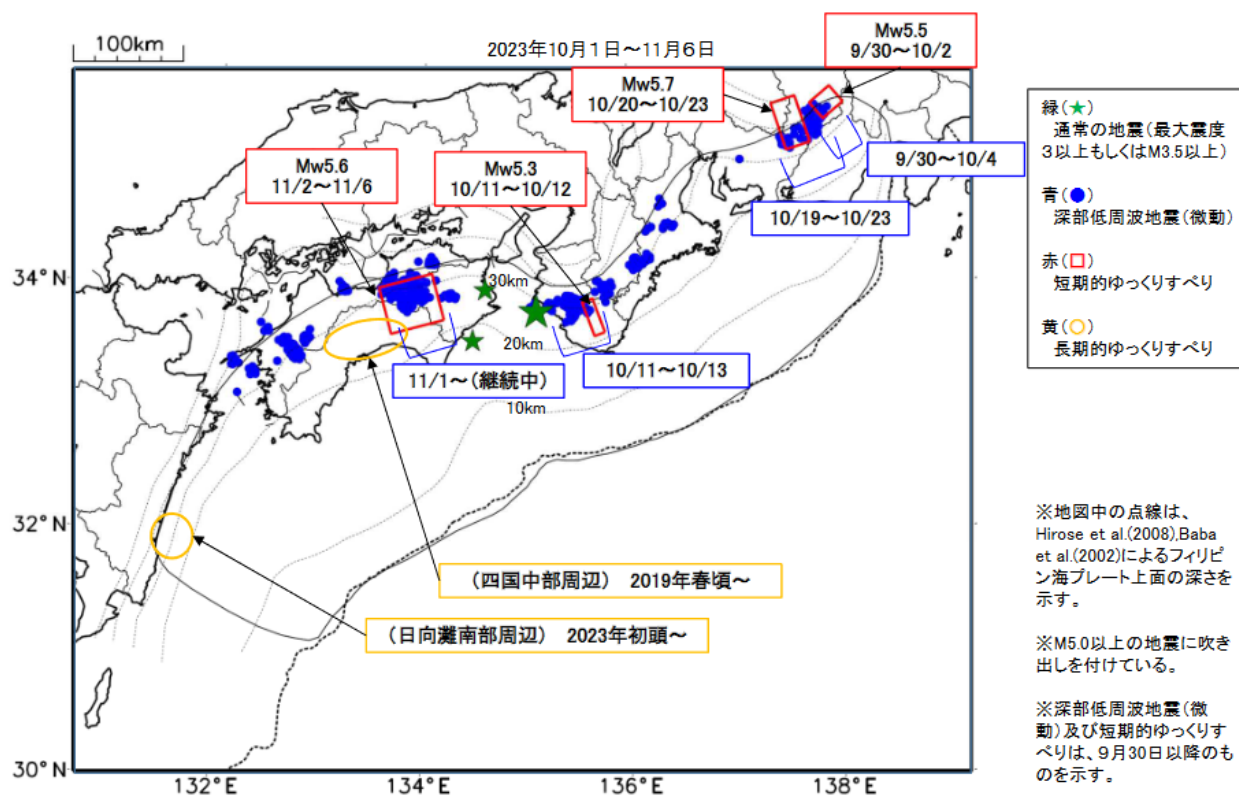
令和5年(2023年)11月8日に公表された評価検討会で評価された調査結果は次のとおりです。

【調査結果(概要)】

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時(注)と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

(注) 南海トラフ沿いの大規模地震(M8からM9クラス)は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70から80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。

【最近の南海トラフ周辺の地殻活動】



通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上).....気象庁の解析結果による。
深部低周波地震(微動).....(震源データ)気象庁の解析結果による。(活動期間)気象庁及び防災科学技術研究所の解析結果による。
短期的ゆっくりすべり.....【東海、四国東部】気象庁の解析結果を示す。【紀伊半島西部】産業技術総合研究所の解析結果を示す。
長期的ゆっくりすべり.....【四国中部周辺、日向灘南部周辺】国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

気象庁作成

上図の深部低周波地震(青●)、短期的ゆっくりすべり(赤□)、長期的ゆっくりすべり(黄○)について、これらの現象は、プレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力も得ながら注意深く監視しています。

なお、詳細は、次の気象庁報道発表資料をご参照ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2311/08a/nt20231108.html>

また、最新の南海トラフ地震に関連する情報は次のページ(URL)をご参照ください。

ホーム>防災情報>南海トラフ地震関連情報

<https://www.jma.go.jp/bosai/nteq/>

【地震一口メモ】

地震活動図の見方について

「香川県の地震」では四国周辺で発生した1か月間の地震活動について地震活動図により説明しています。地震活動図は期間中に発生した地震の震央（震源（地震が発生した場所）の真上にあたる地表上の位置）を地図上に表し、同じ領域の地下の断面を表示させることで、地震が発生した場所が明瞭に分かるようにしたものです。

今回は、地震活動図に用いる「震央分布図」および「断面図」の見方について解説します。

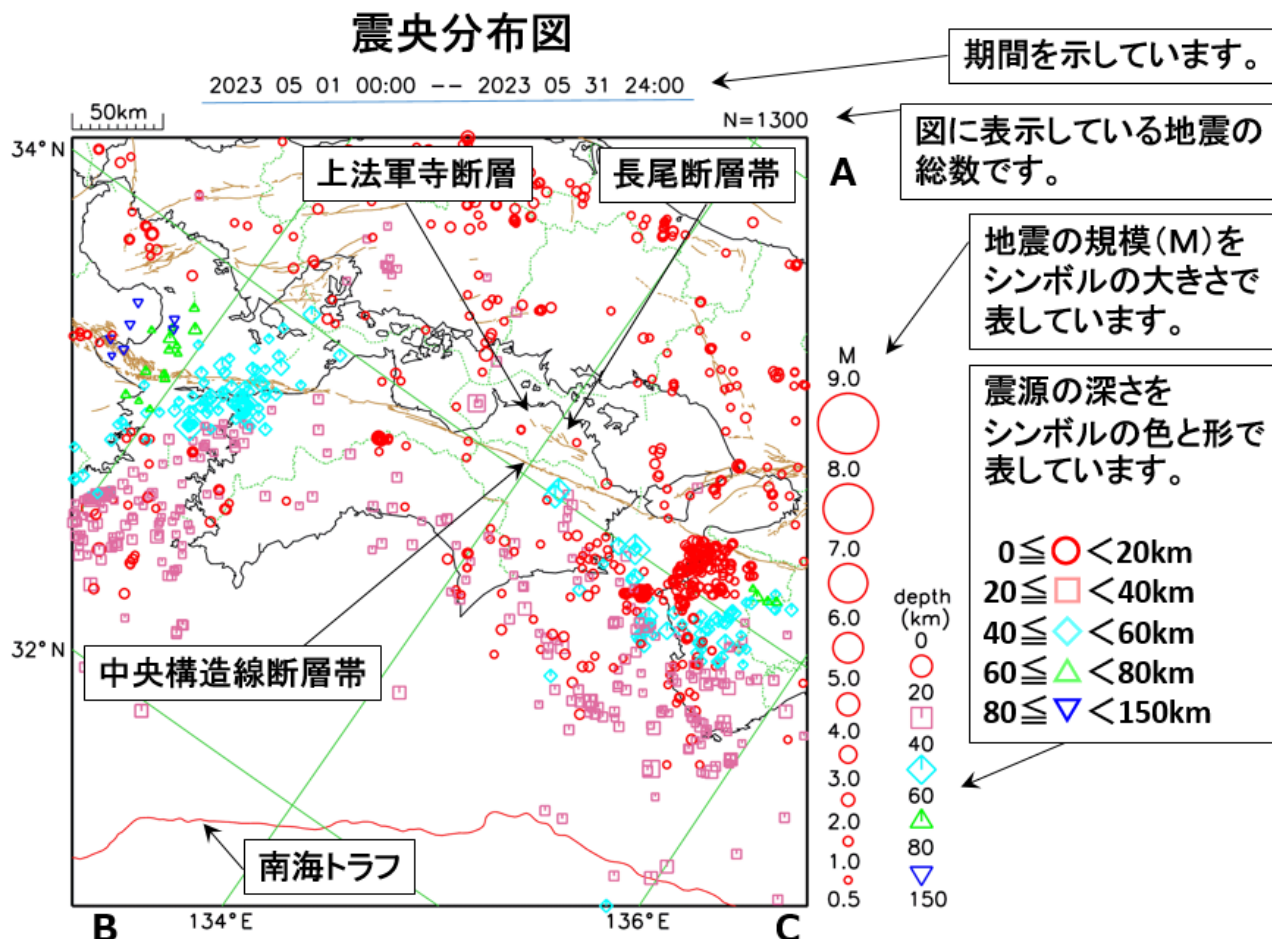
「震央分布図」

各地震の震央を地図上に表示した図が震央分布図です。「香川県の地震」では月毎に地図の範囲内で深さ150 kmより浅いところで発生した地震について、シンボルを用いて表示しています。

シンボルについては、

- ・位置により ⇒ 緯度・経度
 - ・色と形により ⇒ 震源の深さ（0 km～150 km）
 - ・大きさにより ⇒ 地震の規模（マグニチュード：M）
- を表現しています。

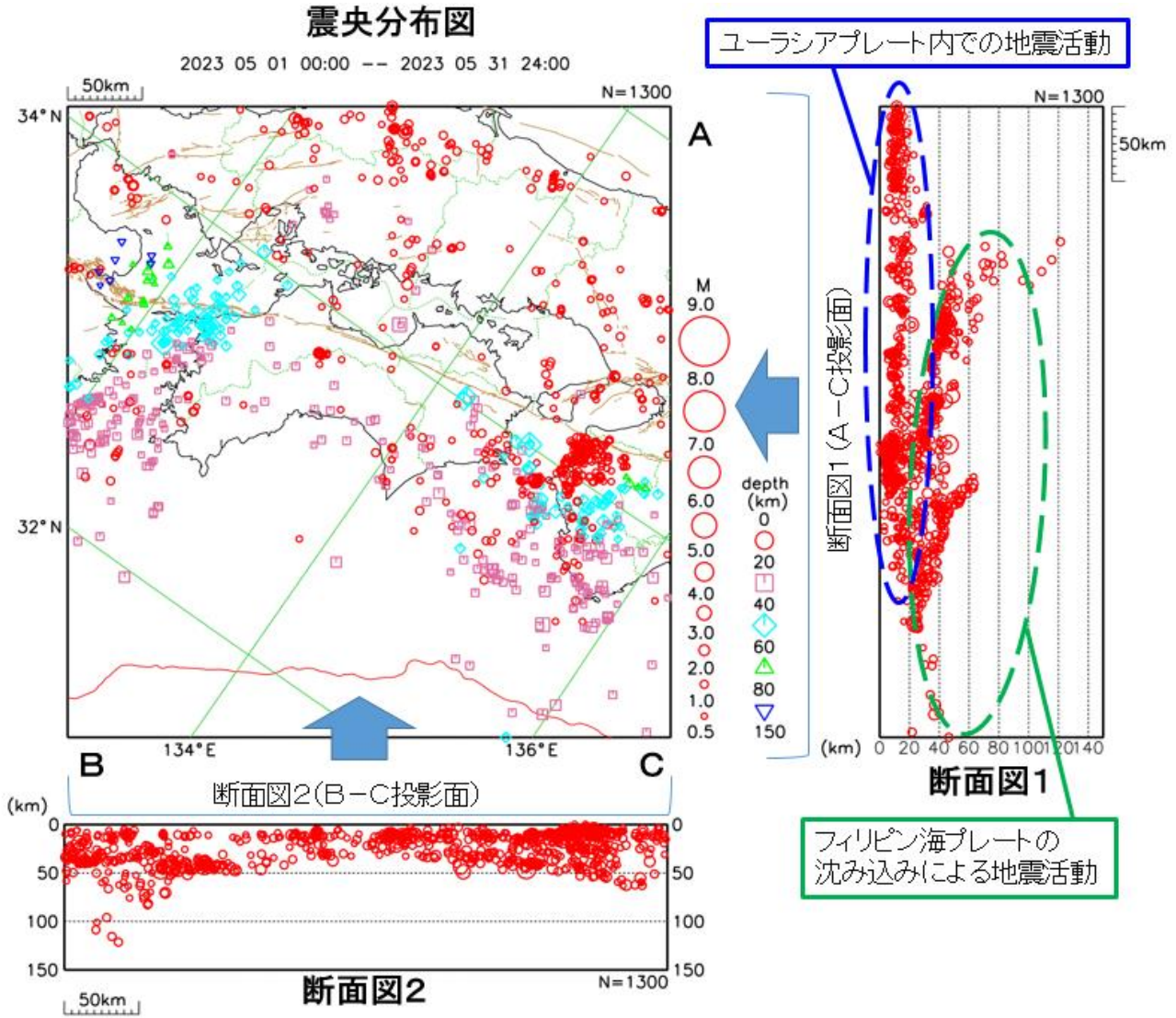
また、南海トラフを示す海溝軸の線や、地震調査研究推進本部による主要活断層も地図上に表しています。



「断面図」

断面図は、震央分布をある鉛直断面上に投影した図です。「香川県の地震」では概ね南北の投影面（A-C 投影面）の断面図1と、東西の投影面（B-C 投影面）の断面図2を掲載しています。これらの断面図では、震央分布図に表された地震に対応した深さが2次的に確認できます。断面図には深さの情報があるため、シンボルの形は同じで、マグニチュードの大きさをシンボルの大きさで表しています。

震央分布図と断面図を見比べることにより、ユーラシアプレートとフィリピン海プレートで発生する地震活動の様子を見ることができます。



「香川県の地震」では、震央分布図を東方向へ35度傾け、その断面図を示すことにより、フィリピン海プレートの沈みこみによる地震活動をよりわかりやすくしています。